

(一) 次の文章を読んで、後の問い(問一～十二)に答えよ。

消滅へのプロセス

近代化の波に洗われて、国家の支配に組み込まれ、伝統的な生活の場がだんだんなくなってくると、民族の言葉が本来担っていた役割が意味を失ってしまいます。それより、みんな英語とか、ロシア語とか、近代生活に便利な言葉に乗り換えてしまうという現実があります。例えば、トナカイ遊牧ができなくなって、会社勤めをするようになった少数民族にとって、トナカイの細かな呼び分けをする言語よりは、コンピュータの操作に必要な言語のほうが便利に決まっています。

そういう世界的な流れの中で、今、少数民族言語が非常に危機的な状況にあります。かつて、民族^a固有の言語をモノリンガルとして、つまりその言語だけで生活していた人たちがどんどん年をとっていく一方で、次の世代は社会的な必要性から周辺の大言語、たいていは国家の言語であるロシア語とか、英語とか、そういった大きな言語を併用するようになります。こうしたバイリンガル世代では、会社や公的な場面では大言語、家庭や私的場面では民族言語という使い分けがなされますが、だんだん家庭内にも大言語が侵食してきます。つまり子どもたちは大言語で教育を受けることが多く、学校の共通語は大言語、テレビをつけても大言語というわけです。大人たちも子どもに民族言語を継承させることよりは、子どもの将来に役に立つ大言語を身につけさせることのほうに熱心だったりします。こうして、子どもたちの世代は、たとえ民族言語を母語としていたとしても、すみやかに大言語へ移行するか、I 初めから大言語を母語として育ちます。古い年齢層から新しい年齢層へとそういう言語の移行が近年急激に進んで、もう大言語モノリンガルの若者がどんどん増えて、古い本来の民族言語はほとんど忘れ去られていくという図式が地球上のあちこちで見られます。

実はこのバイリンガルのところで民族言語は変わると言えます。両方を使うと言っても、どちらも自由に使う、本当の意味のバイリンガルとは限らず、たいていは大言語のほうに押されて民族言語のほうの継承が不完全になるケースが多いのが実情です。そうすると、民族言語が本来持っていた語彙や文法の細やかな区別が切り捨てられて単純化したり、本来は複雑な活用をしたものが単純な形に類^bス^cいで統一されたりという変化がしばしば起こります。こうした単純化を経て変質していく過程は、「ピジン化」と言うこともできます。ピジン化というのは要するに大きな言語の影響をまともに受けて、語彙でも文法でも音声でも混じり合ってしまうことです。本来あった民族言語特有の区別が失われて、大言語に引き寄せられ、II 吸収されてしまう、その前段階と言えます。最近では、多くの少数民族社会で、「民族言語モノリンガル」という話者に出会うことは、もう難しくなっています。次世代に民族言語が継承されていない以上、III 民族言語を記憶しているバイリンガル世代が亡くなれば、少なくとも母語としての民族言語話者がいなくなるという状況が現実のものとなってきています。

話者数から見た世界の言語

ここで世界の言語の状況についても、ぜひ偏見のない目で事実を知っておいてほしいと思います。世界には今日六千ぐらいの言語があると言われています。六千という数は、たぶん多くの人が予想するより、多い数ではないかと思います。しかし、この六千の言語のうち、半分は話者数一万人以下という小さな言語です。

そうした少数話者の言語が実は半分を占めて、百万人以上の話者のいる言語はピラミッドの頂点の二百五十言語、比率になると言語の数全体の四％ぐらいしかないと言われます。しかも、このわずか四％の言語のどれかを世界人口の実に九六％の人が使っているという現実があります。だから世界のほとんどの人は一握りの大言語で生活している一方で、あとの言語は数としては多いけれども使う人の数は非常に少ない、²そういうアンバランスな分布をしているということを、ぜひこの機会に認識してください。この言語数の比率と話者数の比率は別のもので、足して百になるのは偶然ですが、³九六対四と覚えてください。

さらに、この今日一万人以下の話者しかない、約半数の三千言語は、今後百年以内には確実に減じるだろうと言われています。これは今、年寄りしか使っていない言語は、その世代が亡くなればもう母語話者はいなくなるという理屈ですから、ある程度予測できるわけですね。さらに、もっと悲観的な予測では、話者数百万人以下の言語、つまり世界言語の九六％は今後百年以内に消滅してしまうのではないかと予想もあります。

コトバの乱れ？

こうして見てくると、言葉の誤解というのは、ときに言語生活を活性化し豊かにするものである半面、ときには言葉そのものを危うくするものであると言えます。最初は間違いだ、乱れだ、と言っていたのに、みんなが間違えばそれが正しい形、標準語になってしまいうということがあります。「赤信号みんなで渡れば怖くない」と言った人がいますけれど、みんなが従えば、それが正しいことになってしまいうのが言葉のルールです。

しかし、最近の言葉遣いから日本語の状況を見ると、かなり意図的な省略、新語、特に若者の間で大人には通じないような言葉、しかも極^cタンに短くした言葉が非常に多いですね。例えば「気持ち悪い」が「キモイ」になる、この「キモイ」ならまだ ア からいいほうで、やがて「キモッ」、そのうち「キ」となつて、なんだか猿の叫び声と変わらなくなってしまうようなことになるかもしれません。それから、いわゆる頭文字語ですね。KY^dって何だろう？これはいくら考えたってわからないわけで、知っている人にしかわからない（念のため、「クウキがヨメナイ」と余計な解説をするのはまさにKY^e）。

しかし、こういうものにあまり目くじら立てて、嘆く必要は、実はないと思います。こういうのは新しさ、^dキ抜き、それと仲間うちにしか通じないという秘密性、これが命です。だから、それをみんなが使うようになったらもう古くさいわけです。例えば、一時「ナウい」なんて言葉がありました、今「ナウい」なんて言ったら、ちょっと笑われそうですね。もうそんな言葉を使う人がいなくなっている、非常に早いスピードで変わっています。だから、この種のはやり言葉は、はじめから定着しない定めにあるので、あまり気にしなくていいと言えます。そういう意味では目先の言葉の乱れに、過度に神経質になる必要はないと言っている。言葉というのはもっと健全な変化をしていくものであり、言葉を信頼していいと思います。ただし、使う人がそれをしっかり自覚すること、言葉に対して意識して自覚を持つことが大事だろうと思っています。

今、「キモイ」が「キモッ」になって「キ」になると言ったら、まあ、そこまでは短くならないだろう、そんな言い方は定着しないだろうとたいていの人は思うでしょうけど、例えば、私たちが今ふつうに使っている「○○です」とか「○○します」、この「です」「ます」が代表的な日本語の文末表現ですね。しかし、これも昔は「であります」とか「まいらす」と言っていたのが「です」「ます」に縮まってきたわけです。ですから、「気持ち悪い」が「キモイ」を経て、「キモッ」となったのと、たいして変わらないかもしれない。今の若者はこの「です」「ます」を「○○ッス」、「俺ッス」とか「俺も行くッス」とか「ス」だけで言いま

すね。だんだん短くなっていく流れは確かにある、そういうことにやっぱり注意を払うことが大事だと思います。

日本語はどうなる？

日本語の今後を少し展望する形で結びにつなげたいと思います。言葉についての誤解・偏見というのはいろいろな形があり、また言葉そのものに対するさまざまな誤解・偏見・先入観というのがあふれています。まず言葉に対して正しい認識を持つということが第一だと思っています。

日本語というのは実は一億三千万人、日本の人口とほぼ同じ数だけの話者がいるわけで、これは世界の言語から見ると「大、大、大言語」ですね。数え方にもありますが、話者数の多い順で十の指に入る大言語と言えます。しかし、日本語話者にはあまりそういう認識がない、日本語なんてどうせあまりいた言語じゃないと思っている人が案外多かったりします。そういう意味では、もっと自信を持っていい、しかし自信には責任が伴わなくてはならない。特に、日本語話者以外の人が間違いながらも懸命に日本語を使おうとしていることに対する配慮も必要ですし、自分たちより小さな民族集団の言語に対する敬意、そういうものをやはり大言語話者の責任として持つ必要があると思います。

それから、世界の言語の半分が百年後になくなると言いましたが、日本語は一億三千万人も話し手がいるから安タイ⁶だろうと思っている人が多いと思います。私もそう願いたいですが、しかし、よく見てみると、日本語も内部的多様性、つまり方言差がどんどんなくなっている、みんな東京あたりと同じような言い方になりつつある。いろんな形、バラエティ、多様性があるから全体として豊かになるということは、文化も言語も同じです。生物界もそうですね。いろいろな種がいるからこそ全体として維持していけるわけで、偏ってしまうとバランスが崩れて全体が危うくなっていくということにもなるわけです。言語も同じで、多様性を失うことは人類文化の危機と言えます。日本語だけを考えても、やっぱり内部の多様性、方言差というのがしっかり維持されるのが健全な姿ですが、方言というレベルでは日本語もどんどん消滅しつづけると言えます。

それから、「外圧」との共存も考える必要があります。日本語も日本人だけのものではなくなりつつある、外国人のおかしな日本語もある程度許容しなければいけない面もあるかもしれない。外から各国の留学生やビジネスマンがたくさん入ってくる、そんな中で日本語は日本人だけのものではない時代にもう入りつつあることを認識する必要があります。

言語学のすすめ

さきほど、バイリンガルの段階を経て小さな言語は消えていくと言いましたが、日本人の中に、英語を第二公用語にしよう、小さいうちから英語教育をしてバイリンガルを増やそうと考えている人が（役人や教育関係者の中にも）いるようです。これは慎重に考える必要があると私は思います。あえて断言すれば、国民の大半がバイリンガルになれば日本語は遠からず滅びると思います。それだけの覚悟を持って言語政策というのは進めなくてはいけない。英語がしゃべれることと、日本語に対するしっかりした認識や運用力を持つことと、どっちをとるかという問題です。それを判断するためにも、言葉というものに対してしっかりした自覚と正しい認識を持つということ、一人一人がぜひ心がけてほしい。そのためにまず身の回りの言葉の誤用や誤解に敏感になること、つまり「言語学」から始めることを勧めたいと思います。

そこで注意したいのは、この言い方は正しい、これは間違いと決めつける「規範意識」を持ちすぎないこ

と。マル／バツの結果にこだわるより、その中味や背景を知ることが大事です。それから「純粋な」「本来の」「美しい」日本語を守らなければいけないというのも、あまり正しい態度とは言えません。言葉というのは時代とともに必ず変化するということを認めたくえで、健全な変化を受け入れていく柔軟な姿勢が大切で、純粋なまま古い形で守るべきというのは硬直した排他的な言語観と結びつきがちです。言葉の「美しさ」というのも、主観的・相対的な問題であって、「日本語は美しい」よりむしろ、「日本語も美しい」と言えるような、他言語の価値も認める姿勢を持ちたいと思います。そういう意味では「内なる未知のコトバ」（誤用を含む新しい言い方や各地の方言）とともに、「外なる未知のコトバ」（英語一辺倒でない多様な言語世界）にもアンテナを広げ、一人一人が言葉についての認識を深めることで、そこから豊かな日本語を次世代へ受け継ぐことを心がけていきたいものだと思います。

（津曲敏郎「言語学？——未知のコトバとの出会い」による）

問一 傍線部 a～e の漢字と同じ漢字を含むものはどれか。次の各群の 1～5 のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 1 ～ 5 。

a コ有

- 5 4 3 2 1
- コ空をつかむ
資金がコ渴する
血液が凝コする
経済力をコ示する
後コの憂いを断つ

b 類スイ

- 5 4 3 2 1
- 任務を完スイする
国力がスイ微する
午スイをむさぼる
時代がスイ移する
唯物史観に心スイする

c 極タン

- 5 4 3 2 1
- タン錬の賜物
タン正な顔立ち
肝タン相照らす仲
濃タンを強調する
財政が破タンする

d キ抜

- 5 4 3 2 1
- キ特な人
キ発性の油
文明の利キ
破られた禁キ
唾キすべき行為

e 安タイ

- 5 4 3 2 1
- 手厚い歓タイ
タイ冠の儀式
タイ西の名画
沈タイした経済
タイ頭する新勢力

問二

空欄Ⅰ～Ⅲに入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選べ。ただし、同じ番号を二度以上使用してはならない。解答番号はⅠ〓6、Ⅱ〓7、Ⅲ〓8。

- 1 せめて
- 2 むしろ
- 3 意外にも
- 4 かろうじて
- 5 しまいには

問三

傍線部1「図式」とはここではどのような意味か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は9。

- 1 物事の関係を単純化し、類型にあてはめたもの。
- 2 物事の間係を説明するために書いた図やグラフ。
- 3 物事の間係様式として固定化した日常の作法。
- 4 物事が存在する時に表に現れている形、外形。
- 5 改まつてある物事を行う時のやり方や手続き。

問四

傍線部2「そういうアンバランスな分布」とあるが、何と何が「アンバランス」なのか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は10。

- 1 大言語モノリンガルの若者が増えることと民族言語の継承が不完全になること。
- 2 一握りの人のみが大言語で生活していることと大部分の人が民族言語で生活していること。
- 3 民族言語がピジン化していくことと一万人以下の話者しかいない言語が消滅していくこと。
- 4 世界には六千ぐらいの言語があることとそのうちの半分の言語は話者数が一万人以下であること。
- 5 多くの人が使用している言語の数が少ないことと少数の人のみが使用している言語の数が多いこと。

問五

傍線部3「九六」とはどのような値か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は11。

- 1 話者が百万人以上いる言語の数を全言語数で割り、それを百倍した値。
- 2 話者が百万人以上いる言語の使用人数を世界人口で割り、それを百倍した値。
- 3 話者が一万人以下しかいない言語の数を全言語数で割り、それを百倍した値。
- 4 話者が百万人以下しかいない言語の数を全言語数で割り、それを百倍した値。
- 5 話者が百万人以下しかいない言語の使用人数を世界人口で割り、それを百倍した値。

問六 空欄アに入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- 1 みんなが使っている
- 2 省略が非意図的である
- 3 言語生活を活性化している
- 4 形容詞の形をとどめている
- 5 標準語として認めることができる

問七 傍線部4「目くじら立てて」とはどのような意味か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- 1 驚いて目を見開き、思わず立ち上がって。
- 2 気になることに対し、必要以上に注目して。
- 3 わずかなことを取り立て、とがめだてをして。
- 4 口からつばきを飛ばさんばかりに、激しく議論して。
- 5 自分の主義・主張にこだわり、他人の言動を否定して。

問八 傍線部5「この種のはやり言葉は、はじめから定着しない定めにある」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- 1 知っている人にしかわからないこの種の言葉が、定着することはありませんから。
- 2 この種の言葉は健全な変化をしていくものであり、信頼していいものであるから。
- 3 みんなが使うようになったら、古くさくなり、すたれていく種類のものであるから。
- 4 この種の言葉は、意図的な省略が行われたとしても、一定以上に短くなることはないから。
- 5 一時はやった「ナウい」と同様に、非常に早いスピードで消えていく種類のものであるから。

問九 傍線部6「多様性を失うことは人類文化の危機と言えます」とあるが、その背景にある考え方はどのようなものか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- 1 日本語話者以外の人を使う日本語には、日本語話者が使う日本語と同等の価値がある。
- 2 方言があることで、日本語が偏りのない豊かなものとなり、全体として維持される。
- 3 生物界においても、文化や言語においても、健全な姿を維持することは困難である。
- 4 「外圧」との共存により、日本語が日本人だけのものではない時代に入っていく。
- 5 世界の言語の半分が百年後になくなるが、日本語もそのうちのひとつである。

問十 傍線部7「マル／バツの結果にこだわるより、その中味や背景を知ることが大事です」とはどのようなことか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- 1 その言い方が正しいか間違いかのみに注目するのではなく、その言い方の意味や、それが置かれた文脈に思いを致すことが重要である。
- 2 言葉というものに対してしっかりした自覚と正しい認識を持つために、言葉に関する「規範意識」を持ちすぎないことが重要である。
- 3 身の回りの言葉の誤用や誤解に敏感になることより、誤用や誤解に関する判断の根拠を考えていくことの方が重要である。
- 4 バイリンガルになって英語が自由にしゃべれることより、日本語に対するしっかりした認識や運用力を持つことの方が重要である。
- 5 小さいうちから英語教育をしてバイリンガルを増やそうと考えるのなら、言語政策の内容や、それが制定された背景を知ることが重要である。

問十一 傍線部8「豊かな日本語を次世代へ受け継ぐことを心がけていきたいものだ」とある。そのための態度としてふさわしくないものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

- 1 言葉というものが時代とともに必ず変化していくものであることを認める。
- 2 「内なる未知のコトバ」のみでなく「外なる未知のコトバ」にも目を向ける。
- 3 日本語話者以外の人が間違いながらも懸命に日本語を使おうとしていることに配慮する。
- 4 大言語話者の責任として、自分たちより小さな民族集団の言語に対して敬意を持つ。
- 5 多様な言語世界を尊重しつつ、「純粋な」「本来の」「美しい」日本語を守っていく。

問十二 本文の内容と合致しないものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 18。

- 1 大言語は、社会的な必要性から、まず会社や公的な場面に入り込み、次に家庭や私的場面へと入り込んでいく。
- 2 言葉はだんだん短くなっていく傾向があるので、「気持ち悪い」が「キモイ」を経て「キモッ」や「キ」になってしまう可能性もないわけではない。
- 3 今後百年以内に確実になくなると言われているのは、世界の六千の言語のうちの約半数であるが、九十%以上がなくなってしまうという悲観的な予測もある。
- 4 日本語は一億三千万人も話者がいる「大、大、大言語」なので、「外圧」との共存をうまく考えていけば、当分の間、なくなることはない。
- 5 その国の言語の命運に大きな影響を与える可能性があるので、言語政策の策定や推進にはそれだけの覚悟が必要である。

(二) 次の文章を読んで、後の問い（問一～十）に答えよ。

「は、それで一緒に暮らしてんの？」

水谷が声をはり上げるのを聞いて、時子は顔をしかめるふりをしながら、ぎよ¹っとされている手ごたえをしみじみと味わう。次の日、また次の日と朝日を泊めつづけるうち、二週間が過ぎていた。一度ふたりで大きなスーパーに出かけて、朝日の生活用品一式を買いそろえた。パジャマ、下着、歯磨き粉。本格的に同居すると決めたわけではなかったけれど、いずれ他のところに移り住むとしてもあつて困ることはないだろう、という目算だった。朝日は涼²しい顔で長財布からお金を出した。

時子が大学やアルバイトに行くあいだは、朝日に留守を任せた。帰ってくると朝日はいつも、ベッドの上の段で時子が買いあつめた漫画を読んでいた。下に降りれば机も座椅子もあるのに、天井のすぐそばで小さくなっている。

I、自分に与えられたスペースを律儀に守っているらしかった。最初から引かれるとわかっていて、わざと水谷に話していたのかもしれない、と、いつも引かれたあとで気がつく。どんな感情であろうと、自分の話がだれかの強い反応を引きだすのはおもしろいものだ。わかってもらいたい、とか応援されたい、みたいな欲がはなから萎^なえていて、単に強いエネルギーのようなものにふれたいだけのとき、水谷ほどの適役はいない。

「そうなんですねぇ」

「そうなんですねぇじゃないでしょ。え、ふつうに警察じゃないの？」

「警察、はめんどいなあー」

水谷と知りあつたのは大学のギターサークルで、ふたりともが未経験の初心者だった。就職も決まっていた、もうサークルは卒業しているようなものだ。それでも、ときどきこうしてキャンパスで落ちあい、ふたりに食事をする。四年生になつても、どちらもそこまでギターがうまくはならなかったし、好きなアーティストはひとりもかぶらなかつた。

「警察でしょうよ。家族が誰かが搜索してるかもしれないじゃん」

「けど友だちだよ。わたしが泊めてって言ったら警察呼ぶ？」

「死んだと思つて四年半経つたら呼びますけど！」

「まーでも、死んでなかつたわけですよ。それがすごいことよね」

水谷はコーラの入った紙コップをかたむけて氷を食べていたけれど、何回か大きくかぶりをふつた。³ 嚙んだ水を呑みこみながら、いっしょになにかほかのいろいろなものを呑みこんでいるみたいだった。水谷の歯や胃のしたたかさに、時子はいつも感心する。

「ときちゃんがずっと言つてた、マブ^注だった人でしょ」

そう、大貫朝日はマブだった。

中高一貫校の一年生で同じクラスになつて、はじめてカラオケに行った相手も、はじめてプリクラを撮つた相手も朝日だった。最初は何人かのグループのうちのひとりだったけれど、しだいにふたりきりで遊ぶことが多くなつた。大勢で出かけた帰り、路線の多い駅の改札で、グループがゆるやかに散らばつたのと同時に、時子と朝日はそろつてため息をついた。ふたりの肩は、たまたまかすかにふれあつていた。その瞬間、元来ふたりとも大勢でいるのが好きなわけではないことに、互いがほとんど同時に勘づいたのだった。

それからはしょっちゅう長い電話をした。時子はベランダで、朝日は布団の底で、夜遅くまで人生の苦痛についての協議を重ねた。朝日にはきょうだいがない。父親はほとんどのものを言わず、代わりというふう

に常人の倍ほども口をきく祖母がずっといて、祖母が寝たあとに酔った母親につきあうのは朝日しかいなかった。朝日は自分は望まれずに生まれた子どもなのだとさんざんに知らされていたし、それと同時に、自分がいなくなったら大変なことが起きると悟ってもいた。そのふたつがキリキリと矛盾しながら、朝日の瘦せた身体をすりつぶしていた。

夜のたび、かならず朝日が先に泣いた。けれど朝日が泣くと、かならず時子も泣いた。朝日は大きく泣いて、大きく笑う。それが、なにをするにもテンポがひとつ遅れるような時子のしずかさと、うつとりするほど合致していた。だれかと似ていたし、それでいて異なってもいたい。そしてその凹凸がびったりとあうただひとりを見つけて、さらにはその人にも、あなたこそただひとりであると言ってもらいたい。ふたりは肩がふれあうたび、だれもが持つそんな欲求を、少なくとも満たしあっていた。

5 時子にはいつも、人生というのは朝日のようなものところで輝くのだ、と思えてやまなかった。朝日の人生と自分の人生とを指でつまんで秤にのせたら、見た目は変わらないのに、朝日のほうに大きくかたむくちがなかった。苦痛もまた朝日のほうに多くあるとしても、そのぶんあらゆる取り分が朝日のほうに多くあるはずだと思った。事実、同じように他人が苦手なはずなのに、朝日ばかりが同級生によく好かれた。そしてまたときどき、どうして自分がそちらでないのか、とも思った。朝日と息をあわせて泣いているときにも心のどこかで、ひよつとして自分のほうがしんどいんじゃないか、と思うことがあった。自分のことで泣いていれはすむ朝日がうらやましいことがあった。朝日のために泣く自分のほうが、他人であるというちようどその分だけなんともならないのに、それは時子の人生の取り分にはならないのだ。声を囁かして苦しんでいるときでさえ、朝日には光があたつて見えた。そして、その朝日がなぜか時子を頼り、替えのきかない友だちだと思っているらしいことだけが、かろうじて時子を照らしてくれたのだった。

そうして高校二年生の三学期がはじまる二日前の夜遅く、知らないアドレスからメールが届いた。「時子さんへ」という件名だった。送り主は大貫千里——朝日の母を名乗っていた。メールには、大晦日に朝日が自殺したこと、これから引越しをすること、そしてメールについては隠しておいてほしいことが、簡潔に述べてあった。時子が気づいたのは朝だった。跳ねるように朝日に電話をかけたけれど、電源が切られていると自動メッセージが流れた。朝日の母のアドレスに返事を送ると、すでにそのアドレスは存在しない旨のエラーメールが返ってきた。朝日宛に送ったメールだけが、かろうじて送信完了になった。けれど、返信は来なかった。

水谷はリップを塗りなおし、蓋をしめた。

「なんかすごい、大変だった人でしょ。めっちゃ無責任なこと言うけどさ、せっかく生きかえったんだから、いい感じになるといいね」

あっけらかんとそう言うから、時子はのけぞる。

「生きかえった、わけじゃないからね。そこまでは混乱してないよ」

6 言いながら、そうだろうか、と思う。自分はずっと、あのときからいままで、混乱しつづけているような気もする。

朝日のいない始業式の帰り道、時子は数日前に届いた年賀状を片手に、知らない路線のバスに乗りこんでいた。朝日の家に行くのははじめてだった。住所の地点には、「大貫 高橋」と表札の出た、アイボリーの壁の一軒家が建っていた。同じ形で色の違う家が、曲がり角までずらっと並んでいる。家の前にある一台分の駐車場は空で、奥まで行けば窓から中が覗けそうだった。覗けそうだ、と思った時点で、窓にカーテンがかかっていないことにうすうす勘づいていたけれど、考えないようにした。

リビングらしいその部屋には、フローリングが広がっているだけだった。ただ一箇所、部屋の奥の壁だけ、色が違うように見えた。なにかが置いてあるのかもしれない。時子は目をこらし、それがなにかをみとめると、きびすを返して駐車場を出た。歩いていたのが、だんだん駆け足になった。次のバスは二十分後で、一度身体が熱くなるまで走ったせい、かえって震えるほどの寒さだった。

部屋の奥にあったのは、巨大なシダだった。たつぷりと水をふくんだ分厚い葉がこちらに指先を向け、天井から床近くまで層を成していた。茎も土もなく、どこまでが壁で、どこまでが植物なのかわからない。緑色の肉がいきなり壁を突き破って出てきたみたいに見えた。シダはその瞬間にも壁から水を吸いあげ、めりめりと育っていた。

「じゃ、幽霊でしょうね」と、水谷はやはり軽々と言う。

時子は、皿に残っていた揚げ餃子ふたつのうち、ひとつを水谷の皿にうつした。お腹がいっぱいだった。

「X」と水谷が言ったのが、「Y」と時子には聞こえて、だから「まーそれはいつもそうだよ」と返事をした。

(向坂くじら『いなくななくならないで』による)

(注) マブ——「マブダチ」を略した表現。本当の友だち。

問一

傍線部1「ぎよつとされている手ごたえをしみじみと味わう」とあるが、このときの時子の心情を説明したものとして最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□19□。

- 1 自分の話す内容について水谷が拒絶を示していると感じ、否定的な反応を待ち受けている。
- 2 自分の話す内容が水谷を驚かせていることにとまどいを覚え、次に話すべき内容を探っている。
- 3 自分の話す内容に対して水谷が強い関心をかき立てられていることを確かめ、満足を覚えている。
- 4 自分の話す内容があまり水谷に伝わっていないことに苛立ちつつ、その感情を押し殺している。
- 5 自分の話す内容と水谷の反応を引き比べ、話の内容が過不足なく伝わったことを確認している。

問二

傍線部2「涼しい顔」とあるが、これはどのような様子を表現したものか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□20□。

- 1 不安を押し隠して強がろうとする様子。
- 2 現状に満足して悦に入っている様子。
- 3 ありがた迷惑だというような様子。
- 4 まるで他人事であるような様子。
- 5 ふてぶてしさを感じさせる様子。

問三

空欄Iに入る比喩表現として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□21□。

- 1 リードにつながれて散歩する犬みたいに
- 2 ケージに隔てられた猫みたいに
- 3 水面近くで口を動かす金魚みたいに
- 4 電線の上に止まった雀すずめみたいに
- 5 鳥かごを飛び出した小鳥みたいに

問四

傍線部3「嚙んだ氷を呑みこみながら、いっしょになにかほかのいろいろなものを呑みこんでいるみたいだった」とあるが、これはどのような様子を説明する表現か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□22。

- 1 客観的に考えて尋常ではないと思える内容でも、それが親友にとっての現実である以上、否定したりせずにそのまま受け止めようとしているらしい様子。
- 2 背筋の凍るような恐ろしい内容でも、親友がそれを一人で抱え込んでいる状態である以上、自分だけは味方でいてあげようと決意しているらしい様子。
- 3 いろいろとつじつまの合わない内容でも、それを厳しく追及したりせず、ただ黙ってあたたかく見守るべきではないかと葛藤しているらしい様子。
- 4 見えすいた嘘だと思える内容でも、親友がそのことを押し隠そうとしている以上、矛盾を指摘したりすることなく聞きとろうと努力しているらしい様子。
- 5 冷ややかに聞き流すべきだと思える内容でも、親友がむきになって説明しようとしている以上、少しは真実が含まれることを期待しているらしい様子。

問五

傍線部4「朝日が泣くと、かならず時子も泣いた」とあるが、朝日と時子はどのような関係にあるのか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□23。

- 1 起伏の大きい朝日の感情に時子が振り回され、落ちついた状態を見失ってしまうという関係。
- 2 自分とまったく同じ苦境に立たされている朝日に対し、時子が深い同情を示すという関係。
- 3 つらい境遇を生きる朝日の思いを時子が受け止め、唯一の理解者として共感を示すという関係。
- 4 一方的に好意を寄せている朝日から振り向いてもらえない時子が、孤独を深めるという関係。
- 5 生きづらさを抱えて孤独な状況にある朝日を前にして、時子にできることは何もないという関係。

問六

傍線部5「時子にはいつも、人生というのは朝日のようなものところで輝くのだ、と覚えてやまなかった」とあるが、これはどういうことか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 24。

- 1 朝日に人間的な魅力があることは確かだが、朝日と一緒にいると自身の卑屈さを痛感させられるため、本当に救いがないのは時子の方ではないかと思われるということ。
- 2 ずっと苦境に立たされ続けている朝日は、悲劇の主人公としての風格を感じさせる存在になりつつあり、時子から遠く離れた存在になってしまったように思われるということ。
- 3 もともと他人を引きつけるところのあった朝日が、現在のつらい境遇さえ自らの魅力を引き立てる道具にしてしまう、そのしたたかさに時子が圧倒されるように思われるということ。
- 4 ことさらに自らの苦境をアピールすることで周囲の同情を集めている朝日は、いつか時子のもとを離れ、こちらを見下すようになるのではないかと思われるということ。
- 5 朝日がつらい状況下にあることは確かだが、それだけ朝日の人生には魅力があり、脇で共感しているだけの時子より得をしているのではないかと思われるということ。

問七

傍線部6「自分はずっと、あのときからいままで、混乱しつづけているような気もする」について、このような心境の説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 25。

- 1 朝日が本当に死んだのだと信じられなかったにもかかわらず、一度も警察に通報することなく事態を放置し続けた自分は、もともと朝日との再会を願ってはいなかったのかもしれない、ということ。
- 2 いま目の前に確かに存在している朝日の姿を見ても現実味が感じられない自分は、実はずっと前から朝日の存在を自分の中から打ち消し、忘れ果てていたのかもしれない、ということ。
- 3 一方的に関係を断った朝日によって自分が傷つけられたという思いが心のどこかにあるため、同居を始めた日からずっと友情を感じることができずにぎくしゃくした関係のままだ、ということ。
- 4 自分はずっと朝日の生死について考えることから逃避してきたため、再会したときからずっと、朝日の前でどのようにふるまえばよいのかわからないままだ、ということ。
- 5 朝日が死んだわけではなかったことを事実としては受け止めつつ、死んだと信じることによって自分の感情から逃避しつづけた心の状態はつづいているかもしれない、ということ。

問八 傍線部7「歩いていたのが、だんだん駆け足になった」とあるが、これはなぜか。最も適当なものを、

次の1～5のうちから一つ選べ。 解答番号は 26。

- 1 カーテンのない窓を見て、経済的に恵まれない状況にあった朝日の生活を痛ましく思ったから。
- 2 部屋の奥にあやしく広がるシダの姿を目にして、言いようのない不気味さを感じ取ったから。
- 3 フロアリングが広がるリビングを見て、かつてそこに暮らした朝日の日常を感じとったから。
- 4 二つの姓が併記された表札を見て、複雑な家庭事情に振り回された朝日の過去を悲しく想起したから。

- 5 死に対する恐怖で震え上がってしまい、まずは身体を温める必要があるだろうと思われたから。

問九 空欄XおよびYに入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。

解答番号は 27。

- | | | |
|---|-----------|-----------|
| 1 | X Ⅵ 怒ってる | Y Ⅵ 起こってる |
| 2 | X Ⅵ 飛んでる | Y Ⅵ 富んでる |
| 3 | X Ⅵ 止んでる | Y Ⅵ 病んでる |
| 4 | X Ⅵ 憑かれてる | Y Ⅵ 疲れてる |
| 5 | X Ⅵ 来てる | Y Ⅵ 着てる |

問十 登場人物に関する説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。 解答番号は 28。

- 1 時子是一对一の閉じた人間関係を好む性格で、相手に対する独占欲を感じさせるところがある。
- 2 朝日は自分のつらい境遇を周囲に対してことさらに吹聴し、同情を得ようとするところがある。
- 3 水谷は時子の話を聞き流し、自分には関係ないことだと考える冷淡さを見せている。
- 4 朝日にとっての時子は唯一無二の友人というわけではなく、多くの友人の中の一人である。
- 5 朝日との関係が復活した時子は、水谷との関係を面倒だと思い始めている。

(三) 次の文章を読んで、後の問い（問一～八）に答えよ。

自分の「徒党」の中に居る好かない奴ほど始末に困るものはない。それは一生、自分を憂鬱にする種だということを私は知っているのである。

新しい徒党の形式、それは仲間同士、公然と裏切るところからはじまるかもしれない。

友情。信頼。私は、それを「徒党」の中に見たことが無い。

一九四八年四月発行の「文芸時代」掲載の「徒党について」を、¹太宰はそんな風に結んでいる。同時期に始まった「如是我聞」は、後に心中することになる山崎富栄の家で「新潮」の野平健一記者に口述筆記させた連載評論である。内容は志賀直哉を中心とする文壇批判で、絶筆と言っているだろう。²

同年の「社会」四月号には志賀直哉と広津和郎と川端康成による鼎談が掲載されている。太宰はそこで自分への言及を読んだ。

志賀 二、三日前に太宰君の「犯人」とかいうのを読んだけど、実につまらないと思ったね。始めからわかっているんだから、しまいを読まなくなつて落ちはわかっているし……。

広津 太宰君と田村君と、坂口君、⁶ちょうど三つ同じ月に出た小説を読んだが、それは皆わかっているのだ。そしてその間に目標もみなわかつている。それに向かって無理押しの駆足を三人がしている感じだね。その競争はせっかちで……。

川端 「I」を読みましたが、別に新しいとか、これまでの人には書けない、というような感じはありませんね。ただ連想の飛躍みたいところは独特で面白いけれど……。

広津 新しい旧いを……。

志賀 何だか大衆小説の蕪雑さが非常にあるな。

川端 それはこれから出ようとする若い人たちはもつとそうだと思いますね。懸賞小説をだいたい読みましたけれども、だいたい通俗的ですね。それで作家らしいスタイルというものがありませんし、デッサンが非常に出来ていない。

志賀 デッサンが出来ていない。

川端 大事など何でもないところとの区別がないし、非常に無駄が多い。ところどころにその人たちのぶつかった経験だね、いいところがありますけれど……。

これを受けて太宰は「如是我聞」の中で、志賀直哉へ「II」をくり返す。そして、川端康成と思われる人物についても書く。

なお、その老人に茶坊主の如く阿諛追従して、まったく左様でゴゼエマス、大衆小説みたいですね、と言っている卑しく痩せた俗物作家、これは論外。

（乗代雄介『本物の読書家』による）

問一 傍線部1「太宰」は太宰治を指す。その代表作の冒頭第一文を次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 私はその人を常に先生と呼んでいた。
- 2 永いあいだ、私は自分が生れたときの光景を見たことがあると言いつ張っていた。
- 3 くまにさそわれて散歩に出る。
- 4 私は、その男の写真を三葉、見たことがある。
- 5 ある日の暮方の事である。

問二 傍線部2「新潮」は明治三十七年創刊の文芸雑誌であるが、この雑誌の創刊より早く発表されている作品を次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 国木田独歩「武蔵野」
- 2 谷崎潤一郎「春琴抄」
- 3 佐藤春夫「田園の憂鬱」
- 4 梶井基次郎「檸檬」
- 5 井伏鱒二「黒い雨」

問三 傍線部3「志賀直哉」について、以下の問いに答えよ。
あ 「志賀直哉」の代表作を次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 或る女
- 2 お目出たき人
- 3 暗夜行路
- 4 金色夜叉
- 5 蒲団

い 「志賀直哉」が仲間たちと創刊した雑誌のタイトルを次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 文芸戦線
- 2 文学界
- 3 我楽多文庫
- 4 文章世界
- 5 白樺

問四

傍線部4「広津和郎」の代表作「神経病時代」は大正六年に発表された。この作品と同年に発表された作品を次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 夏目漱石「吾輩は猫である」
- 2 芥川龍之介「戯作三昧」
- 3 三島由紀夫「金閣寺」
- 4 森鷗外「舞姫」
- 5 小林多喜二「蟹工船」

問五

傍線部5「川端康成」について、以下の問いに答えよ。

あ 「川端康成」についての説明として適当ではないものを次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 「新感覚派」の一員として横光利一らと共に活動した。
- 2 ノーベル文学賞を受賞した。
- 3 代表作「痴人の愛」がくり返し映画化された。
- 4 ごく短い小説を集めた『掌の小説』という作品集がある。
- 5 芥川賞の選考委員を務めたことがある。

い

「川端康成」の作品はどれか。次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 古都
- 2 たけくらべ
- 3 浮雲
- 4 父帰る
- 5 頭ならびに腹

問六

傍線部6「坂口君」は坂口安吾を指す。この作家についての説明として適当なものを次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 敗戦直後に発表した小説「破戒」で注目を集めた。
- 2 太宰治らと共に「無頼派」の一員と見なされる。
- 3 初期の小説「鼻」は夏目漱石に激賞された。
- 4 プロレタリア文学運動に関与した。
- 5 坪内逍遙と論争したことがある。

問七 空欄Ⅰには太宰治が戦後に発表した作品が入る。適当なものを次の1～5のうちから一つ選べ。解答

番号は 37。

- 1 走れメロス
- 2 灰色の月
- 3 焼跡のイエス
- 4 斜陽
- 5 ビルマの豎琴

問八 空欄Ⅱには四字熟語が入る。文脈上、最も適当なものを次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号

は 38。

- 1 牽強付会
- 2 紆余曲折
- 3 阿鼻叫喚
- 4 罵詈雑言
- 5 熟慮断行